

ブレストケアチームの活動と課題

Activity report of Brest caring team

東 8 階病棟：内藤綾子、塚原美佳、玉井琴江、東田有加、小松由香利
通院治療室：所真由美 乳腺内分泌外科外来：神田史歩

《要旨》

乳がん治療は年々高度化・複雑化しており、病理結果に基づいた手術療法、放射線療法、内分泌療法などを組み合わせて集学的治療が行われている。そして、様々な選択肢がある乳がん治療は、インフォームドコンセントが前提となって進められている。その一方で、乳がん患者は多くの身体的・心理的・社会的問題や苦痛を抱えながら、治療の選択を迫られ、自己決定しなくてはならない場面に多々遭遇している。このような乳がん患者を取り巻く医療者は、患者を多面的に捉えて QOL の向上を目指した治療やケアを提供する必要に迫られている。一方、入院期間の短縮により患者の心身とケア不足が感じられる。そこで、2005 年 10 月より、専門職が協働し、乳がん患者の生活のサポートをしていくチームが必要と考え、ブレストケアチームが発足となった。

《キーワード》 ブレストケア、多職種、情報共有

1、はじめに

ブレストケアチームとは、乳がん患者をサポートするチームである。当院のブレストケアチームとは、東 8 階病棟・東 2 階病棟のブレストケア担当看護師と乳腺内分泌外科医師、乳腺内分泌外科外来、形成外科外来、通院治療室看護師、理学療法士、薬剤師、MSW の総勢 22 名で活動を行っている。本年度の活動を振り返り、今後の活動を検討したため報告する。

2、活動内容

① 月 1 回のチームミーティング

- ・ 内容)・電子カルテのヤギー使用による患者連絡表作成と情報共有
- ・ 患者向けパンフレット「乳がんの治療を受けられる方へ」の見直し、修正
- ・ 手術オリエンテーションの見直し、統一
- ・ 勉強会の開催
- ・ 年 2 回の患者のつどい「信大りぼんの会」の企画、運営

② 患者へのチーム紹介

③ リンパ浮腫治療管理料加算に伴い、リンパ浮腫の支援方法の検討・スタッフ教育

- ④ ピンクリボンバッチの着用
- ⑤ 乳がん学会、研究会、リンパ浮腫研究会の参加

3、まとめ

- ・ 電子カルテ上でも患者連絡表の運用より多職種が必要な時に患者の情報を共有することができた。
- ・ 再入院・緊急入院時の患者連絡表の運用方法が確立していないため、タイムリー情報共有ができていない。現在はチームミーティングで必要な患者の情報共有と検討会を行い、情報共有の場を設けている。
- ・ パンフレット・オリエンテーション用紙の見直しによって、最新の情報を患者に提供することができた。
- ・ 昨年度と比較し専門職からの勉強会ができた。しかし、不定期の開催であったため他の研修と重なってしまうことがあり、今後、年度初めに計画を立案する。
- ・ 患者の意見を反映した「信大りぼんの会」の企画・運営ができた。
- ・ リンパ浮腫指導の必要性と支援内容を病棟スタッフへ周知することができた。また支援することに自信のないスタッフに対して、ブレストケアチームスタッフでフォローすることができた。
- ・ スタッフへリンパ浮腫指導を意識付けできたことで、リンパ浮腫に関する支援に費やす時間が増えている。これにより患者はリンパ浮腫に対して関心を高めることができていると考える。

4、今後の課題

- ・ 全病期にわたる患者の情報共有がタイムリーに行えるよう、患者連絡表運用の再評価
- ・ 記述式調査を用い患者よりチームの活動を評価してもらい、さらに患者のニーズに合った支援を検討
- ・ チーム全体の知識と技術のレベル向上
- ・ 乳がん患者に関わるスタッフの教育
- ・ 患者が退院後もリンパ浮腫セルフケア（予防も含め）を継続して行えているか評価を行い、入院中の支援内容の検討